

## 2021 年度入試 刑法B日程 出題の意図

問題 1 は、刑法総論に関する重要な概念のごく基礎的な理解を問うものである。事例を設定させるのは、適切な事例設定は正しい知識の裏打ちを測るために有用だからである。

(1) は、刑法 36 条に規定されている正当防衛に関する重要な概念である。正当防衛の違法性阻却根拠に関する結果無価値論と行為無価値論による基本的理解の差を背景に、積極的加害意思の内容および体系的位置付けに関する基本的な理解を問う。(2) は、犯罪行為の可罰性の前提となる実行行為の始期に関する重要な概念である。各説の対立が犯罪の処罰根拠に関するどのような理解の差から生じるのかを適切に把握し、それを踏まえてそれぞれの見解の趣旨が理解できているかを問う。

問題 2 は、犯人蔵匿等罪における「犯人」の意義という刑法各論上の典型論点を問う事例問題である。国家の刑事司法作用という犯人蔵匿等罪の保護法益の理解から、「犯人」とは真犯人であることを要するか、捜査中の者であれば足りるか、嫌疑が濃厚であることが必要かという見解の対立に関する自らの立場が適切に導かれ、正しく当てはめができるかを問うている。